

漢語サ変動詞「充実する」の自他使用の考察から導き出された「図る」の使用について

ながさかひろこ
長坂裕子（目白大学大学院生）

1. 研究背景と目的

漢語サ変動詞の自他使用については、漢語の語構成から自他を探ろうとする研究（張、2010）などがあるが、日本語学習者にとって判別が難しい分野であると言える。また用例別「させる」の出現頻度調査（庵・宮部、2013）からもわかるように、日本語母語話者であっても選択が一致しているとは限らない。そこで本研究では、日本語母語話者の漢語サ変動詞の「する」「させる」の使用のゆれの状況を明らかにすることを目的とする。

2. 調査及び結果

本研究では「充実」という言葉に着目し、日本語母語話者の使用のゆれを観察する観点から、書き言葉資料である国の『地方財政白書』（以下『白書』）と「朝日新聞クロスリサーチ」（以下「新聞」）を使って「充実」の使用及び使用別の割合の年代の推移を調査した。

(1)『白書』:「充実」はほとんどが名詞として使われ、中でも「～の充実を図る」と使われることが多い。また、2000年代になるまでは「～を充実させる」はほぼ使用されておらず、「～を充実する」が使用されている。さらに「～の充実を図る」の使用は、1960年代を除いて「～を充実する」「～を充実させる」の使用を上回っていることがわかった。

(2)「新聞」:1980年代には「～を充実させる」は「～を充実する」の2倍程度の使用があったが、年とともにその使用は増え、2000年代には6倍程度の使用に増えている。また、「～の充実を図る」の使用は全体から見た頻度は少なく、年を追うごとに使用割合は減少傾向にあるものの継続的に使用されていることがわかった。

以上から、日本語母語話者の使用にゆれがあり、また「～の充実を図る」の使用は、特に『白書』では高頻度で、「新聞」でも継続的に使用されていることが確認できた。

3. 考察及び今後の課題

書き言葉の文章は従来「図る」の使用が多いため『白書』では「図る」を使用する。また「充実させる」には強制するイメージがあるのでそれを避け「充実する」を使った可能性がある。一方、「新聞」では、「充実する」は一般的に辞書では自動詞のため、規範に則って「充実させる」を使用するのだろう。そのような「新聞」の影響を受け、『白書』にも2000年代には「させる」が登場するようになったと考える。しかし、このような違いがあっても「充実を図る」は『白書』『新聞』の両方で使用されているため、日本語学習者が「充実する」の自他の判断に迷った際には名詞の「充実」を「図る」と共に使用することを選択肢の一つとして提示することが可能ではないかと考える。また「充実」以外にどのような言葉が「図る」と相性がいいか、その詳細な調査については今後の課題としたい。

【参考文献】庵功雄・宮部真由美(2013)「二字漢語動名詞の使用実態に関する報告―「中

納言」を用いて―」『一橋大学国際教育センター紀要』4(pp. 97-108)

張志剛(2010)「語構成による漢語動詞の自他使用の予測可能性」『言語社会』

第4号(pp. 415-423) 一橋大学言語社会研究科